

水辺クリーンの会



今回お話を伺った水辺クリーンの会さんは、仙台市の上下水道工事(主に水道の本管部分)に携わる会社の 10 社で構成された団体です。水辺クリーンの会さんでは、仙台環境開発大倉ダム周辺の清掃活動を平成 10 年から続けています。また、平成 18 年よりみやぎスマイルリバー・プログラム(※)に参加しています。

活動を始められたきっかけは、水に携わる会社として地域貢献をしたいと考えたときに、仙台市の水がめである仙台環境開発大倉ダムの清掃活動をしようと考えられたそうです。



左から事務局 遠藤さん、金来(かねきた)会長(中央)、次期会長 渡辺さん(右)

この活動を行うにあたり、地元である大倉小・中学校が清掃活動を行っていたので、その活動日に重ならないように連絡を取りあったそうです。

清掃活動を始めたばかりの時は、橋の下などに粗大ごみの不法投棄が多く、集めたごみはトラック 20 台分にもなったそうです。継続した活動のおかげでここ数年は粗大ごみが減り、各社からの参加人数も少なくてよくなったとのこと。

また、啓発活動として大倉小学校のみなさんからポイ捨て防止を呼び掛ける標語を募集し、ダムの管理者の協力を得て啓発看板を設置しています。自分で考えた標語がダムの周りに看板として建てられると、考えた本人はもちろん、そのご家族にも喜ばれているとのこと。

活動を行う上で大変だったことは天候の判断で、4 月は雪が降ったり 10 月は大雨が降ったりということもあり、判断が難しい時も多いのですが、決めた日に行うことに意義があると考えて活動を続けられているそうです。

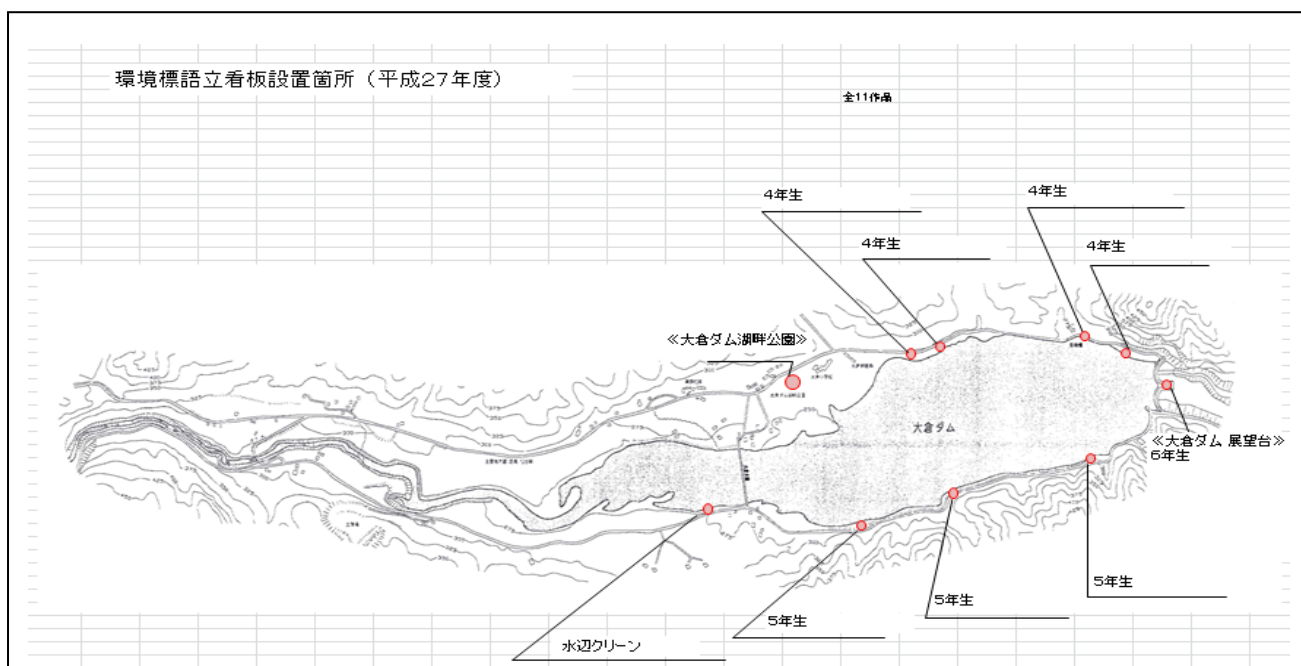
今年でこの活動を始められて 18 年。構成団体の方も代替わりし、会長職は次で 4 代目になるそうです。継続した活動を行えるコツは、水に携わるプロが使命感を持って活動をされているということと、関係各団体とコミュニケーションを密にとりながら行っているからでしょうか。

「清掃活動に参加した社員は、人の為に活動をすることで清々しい気分になり、拾えば捨てなくなる。」と確信を持って金来会長はお話しされていました。

活動の度に、各関係団体にも活動の予定、報告をされています。周りにも配慮し、感謝を忘れない、その一本筋の通った活動に職人としての心意気も感じられます。

2時間以上にも渡る清掃活動も、ハイキングのような感じで行っていると皆さんはお話しされていました。その力強いお言葉に、これからもこの活動が受け継がれていくのだろうと感じました。

※みやぎスマイルリバー・プログラムとは、県管理河川の一定区間の空き缶やごみの回収、草刈、清掃、樹木の剪定、伐採などを5人以上の団体で年2回以上行うものです。このプログラムに参加する場合には、あらかじめ河川管理者に申込書を提出し、認定してもらう必要があります。



▶仙台環境開発大倉ダ大倉ダム周辺に設置された啓発看板の位置図。(○が看板設置場所) 昨年は、11基設置されました。



▶注意深く活動されている様子。



▶大倉ダム堰堤(えんてい)からの風景